

参考資料2

東山動植物園再生プラン

アフリカゾーン アフリカの森エリア

名古屋市

ゴリラ・チンパンジーの生活を様々な視点から観察

アフリカの森エリア

ヒトのなかまがくらす森

3 生活環境を学ぶ

ヒトのなかまの生活や背景を知ることによってアフリカの森の自然環境などについても学んでいただけます。

東山の森を背景に群れで暮らす“ヒトのなかま”（ゴリラ、チンパンジー）の本来の姿を様々な視点から間近に観察していただけます。

森で生きる“ヒトのなかま”の生活や背景を知っていただき、人と動物と環境との関係を考えるきっかけにしていきたいと思います。



中央観覧スペースのイメージ



サインイメージ

4 もちかえる

ゴリラ・チンパンジーと同じ目線で“ヒトのなかまがくらす森”をふりかえり、楽しい思い出とともに人のなかまの知識を持ち帰っていただけます。

ヒトのなかまがくらす森に出発！！



1 出会う

ゴリラ・チンパンジーに出会い、息づかいを感じていただけます。

みる

ヒトのなかまの生活を観察する

感じる

ヒトのなかまを感じる

知る

特徴をヒトとくらべる

学ぶ

現地の自然環境を考えるきっかけにする

もちかえる

楽しい思い出とヒトのなかまについての知識を持ち帰る



チンパンジー運動場のイメージ

2 生態を知る

行動能力や知能の高さを観察していただけます。また、ヒトのなかまの特徴を自分と比べながら学んでいただけます。



チンパンジーの屋内展示のイメージ



学習コーナーのイメージ



ゴリラ運動場のイメージ

ヒトのなかまについて

ゴリラ (ニシゴリラ)



霊長目ショウジョウ科。最大の霊長類。カメルーンから中央アフリカ共和国にかけてのアフリカ大陸中西部に分布。野生では1頭のオスと複数頭のメスからなる約10頭の群れを形成します。食性は植物食傾向の強い雑食で果実、植物の葉、昆虫などを食べます。出産間隔は3～4年。寿命は約50年と考えられています。

国内で飼育されているゴリラは、1990年頃には50頭ほどでしたが、現在は25頭にまで減っています。また、少子高齢化が進んでおり深刻な問題となっています。

チンパンジー



霊長目ショウジョウ科。アフリカ大陸の赤道周辺に分布。昼行性。食性は雑食で、主に果実を食べますが、種子、花、葉、樹皮、蜂蜜、昆虫、小型から中型哺乳類なども食べます。寿命は約50年と考えられています。



環境エンリッチメント*の導入

様々な工夫により動物の多様な行動が可能な空間づくりを進めます。変化のある飼育空間は、動物の生き生きとした生活につながり、来園者が動物に興味をもつきっかけとなります。また、動物福祉の観点から飼育動物の幸福な暮らしの実現を目指すことができます。



※環境エンリッチメントとは、動物福祉の立場から、豊かな飼育環境を実現するための具体的な方策のこと。

2015年度 (平成27年度)	2016年度 (平成28年度)	2017年度 (平成29年度)	2018年度 (平成30年度)
工事着手	工事	工事	オープン

【ゴリラ・チンパンジー舎の概要】

室内展示・寝室：約 650m²
 (鉄筋コンクリート造 (一部鉄骨造))
 (地下1階 地上2階建)
 運動場：1,360m²



東山動植物園
 Higashiyama
 ZOO & BOTANICAL
 GARDENS

企画・編集

名古屋市緑政土木局
 東山総合公園再生整備課

〒464-0804 名古屋市千種区東山元町 3-70
 TEL : (052) 782-2111 FAX : (052) 782-2140
 URL : <http://www.higashiyama.city.nagoya.jp>

発行年月：2015年（平成27年）7月 ※このリーフレットは、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。